

令和2年度 太陽の家キャロット 自己評価結果(公表)

公表日 令和3年3月8日

社会福祉法人 光友会 太陽の家キャロット

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	備考
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・部屋を区切って使用している場合は、スペースが十分ではないと感じる。	・10人の曜日は、狭いと感じる時もある。部屋を2つに分けるなど工夫して使用している。 ・収納スペースが少なく、廊下等に置かざる得ない状況がある。
	2	職員配置数は適切であるか	○		・適切に配置されていると思う。 ・児童10人に対して、職員3人に対応するのが難しい場合がある。 ・療育を行うには、もう少しゆとりのある職員配置で支援に当たることが望ましいと思う。 ・身辺自立が未熟に対して、職員3人の配置では少ない。(トイレ介助等丁寧に支援したい)	・国・市の配置基準以上に職員配置を行っているが、児童の状況や活動内容によっては、配置不足を感じる場合がある。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされているか	○		・子どもの特性や発達に合わせて環境を整えている。 ・階段の昇り降りがスムーズに出来ない児童がいるので、エレベーターを利用している。 ・施設が古く、バリアフリー化されていない所が多い。	・子どもに分かりやすく、視覚的な配慮等の構造化に取り組んでいる。 ・施設の老朽化が激しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・老朽化をしているが、清潔に保つため、日々の清掃と消毒に十分配慮している。 ・施設老朽化のため、壁の塗装の剥がれ、マットなど汚れが目立つ。 ・トイレの臭いが気になる。また、水の流れが弱く、汚物が流れにくいので改修が必要である。 ・玩具類の消毒を定期的に行うなど、衛生面には配慮している。 ・エアコンの故障、水漏れなど、工事に入るまで応急処置をして過したが、早急に対応し改善された。	・建物は、既に45年を経過して老朽化しており、トイレなど修理・改修が続いている。 ・日々の清掃や消毒には十分配慮している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参加しているか	○		・支援内容や日々の業務について検討、話し合いを行っている。	
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げているか	○		・保護者からの要望が多い事項の検討改善に取り組んでいる。	・改修に関する保護者の要望が多く、予算確保に向けて調整を行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公表しているか	○		・職員会議等で話し合う機会を持ち、評価結果を踏まえて、日々の療育にあたっている。 ・保護者評価、自己評価結果は、HPへの掲載、施設内掲示、その他の方法で公表している。	・評価結果を踏まえ、改善、努力に努めています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		・外部専門家(スーパーバイザー)の助言内容を受けて、支援内容を修正、見直しする研修会を行っている。	・例年、外部の療育の専門家に療育内容などの指導・助言を受ける機会を確保し、職員研修の位置付けで実施しているが、今年度は、コロナ感染予防のため、先方より見合わせの連絡があり、実施出来なかった。

適切な支援の提供

9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・定期的に研修があり、学びを高めている。	・外部研修は、コロナの関係で参加が難しい年度で会ったが、園内の研修を充実して取り組んだ。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・定期的に話し合い、必要な支援等確認して計画している。	・全ケース定期的に関係職員が集まって、ケース検討会を開催して個別支援計画を作成しています。総合的な評価に努めている。
11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		・日々の評価表を共通で使用している。	・引継ぎや、経験年数に関係なく評価ができるようなツールを検討している。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		・児童発達支援の、「発達支援」、「保護者支援」、「地域支援」を3つの柱として、重点項目と設定し充実に努めている。 ・幼稚園、保育園等への併行通園がスムーズに進むようにフォローに努めている。	・相談業務にも力を入れている。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		・個々の障害特性、状態を把握し支援に努めている。 ・支援計画に対して日々の評価を行っている。	・行動記録様式は、個別支援計画に沿った項目にしており、日常的な療育で支援計画を意識出来るように配慮している。
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・リーダーが立案し、それを基にクラスで確認、修正している。 ・狙いや目標を決めて、プログラムを組んでいる。	・毎日クラスで打ち合わせを行っている。
15	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○		・様々な活動を提供するとともに、児童の特性上、同じ活動内容でも、その都度狙いを設定して取り組んでいる。 ・日々、子どもの状況や個々の特性に応じた取組を行っている。 ・子どもの興味・関心を察知し、プログラムを作成・実施している。	・同じ活動を積み重ねて経験する事で、個々の取り組みの成長や変化も捉えて活動を考えている。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	○		・子どもの特性や発達段階に合わせ、計画の作成を行っている。 ・個別の課題と集団(併行通園)での課題を整理し、目標設定を定める。 ・子どもの状況に応じて他クラスとの交流を図っている。	
17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・日案を基本として、クラス主任を中心に打ち合わせを行っている。 ・スムーズに療育が進むように、療育前に意識して取り組んでいる。 ・朝の打ち合わせをする時、当日入る非常勤職員にも子どもの様子を必ず伝えるようにしている。	・支援開始前の朝の打ち合わせは、定着して行っている。 ・打ち合わせがルーティンにならないように、その日の内容の明確化を周知している。
18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の振り返り、気付いた点等を共有しているか	○		・十分出来ない時もあるが、日々の振り返りを行うようにしている。 ・記録などの事務作業をしながらの振り返りになっているので、時間の使い方を見直したいと考えている。 ・職員の勤務時間が違うため工夫して行っている。	・支援終了後の振り返り等の大切さを認識しており、組織としてしっかりとした枠組みを構築していくように検討している。
19	日々の支援に関して記録を取ることが徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・毎日活動記録を記入し、食事、排泄、言語、認知、行動等の評価項目ごとに評価・記入し、基礎資料として活動記録の活用に配慮している。 ・要点をまとめて記入できるよう向上に取り組んでいる。 ・支援目標に沿った記録を取っている。	・日々の記録の取り方、記入方法等の改善を図っている。

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の目標設定時にクラス担当者で話し合い、達成度の評価と療育内容の修正を行うようにしている。 ・保護者の意向を確認しながら見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児発管やクラス担当者だけではなく、関係職員全員で総合的な視点に基づいて個別支援計画を策定している。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が出席しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス主任や児童発達支援管理責任者が出席している。 	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・併行通園児童の幼稚園や保育園を相互に訪問するなどして、様子を観察したり、話し合いの場を設けるなど、関係機関との連携に努めている。 	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身クラスがないため、他の医療機関との関わりはないが、保護者から通院した場合はその時の話を聞くようにしている。 	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて連絡を取り、情報共有や支援内容の確認を行っている。 ・移行の可能性があると考えられる場合、通園先に出向いて、先方の職員と意見交換、相互理解を図るようにしている。 	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・市の就学支援委員会に児童発達支援管理責任者が出席し、就学に向けて情報交換や検討を行っている。 ・引継ぎ資料の提出や、必要に応じて学校への訪問、アフターフォローも実施している。 ・支援学級、普通級との連携があまり出来ていない。改善していく。 	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ感染予防のため実施できなかったが、先進施設に職員を1日派遣し、支援状況を体験する交流研修を例年実施している。 ・他施設との交換研修では、新たな発見やアイデアを得ている。 ・様々な会議には積極的に参加して支援に役立つ情報の確保に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ感染予防のため、実施中止となった。次年度はどのような方法であれば進められるかを検討していく。
	28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・併行通園をしている。 	
	29	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染予防のため中止となる会議が多かった。 ・「特別支援教育協議会」など市主催の連絡会議には、施設長が出席している。リモートでの会議参加となっている。 	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・親子通園時や呼び込み、電話等で保護者との情報交換、支援内容、方向性等の共有、確認を図っている。 ・共通理解が難しい場合もある。 	

関係機関や保護者との連携関係

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者等に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援の重要性を認識し、保護者教室の充実に努めている。しかし、今年度はコロナ感染予防のため、様々な内容を書面で配布する形を取った。 保護者教室を通して、障害特性等の理解の促進を図るなど、保護者支援に努めている。 	保護者が子どもの障害理解を深めることは非常に大切であり、コロナ対策を検討し開催に向けて、園として努力を続けていく。
	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 入園説明会や個々の契約時、内容変更時等に個別に詳細・丁寧に説明している。 	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 定期的に保護者との個別面談の機会を設定し、支援内容、変更点、修正点、意向等を確認し、保護者から同意を得るようにしている。 	
	34	定期に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 家での様子を聞き、親の困り感を踏まえて療育を行うよう意識している。 定期面談に加え、日々の相談シートで保護者の相談を受け付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談希望の有無に関わらず助言等が必要と思われた場合は、面談、電話等により迅速に対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染予防のため実施されていない部分もある。 保護者主体の保護者どうしの繋がりを連携について、可能な範囲で協力している。 クラス主任や児発管を中心に対応するようにしている。 以前は父母の会があったが現在はない。 	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速に対応しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 相談シートを作成し、周知、共有することで相談体制の整備を図っている。 保護者が安心して子どもを預けられるように、関係性を築くように配慮している。 保護者から何らかの相談があった場合は、早目に面談機会を設定し担任や児発管などで対応している。 相談内容によっては、園の相談支援専門員に繋げている。 	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 毎月、園だよりを発行し、活動予定、保護者教室の開催、必要な伝達事項等を含め、その都度編集会議を開催して紙面の充実と情報伝達に努めている。 法人ホームページへの記事掲載を担当で配信を行っている。 	
	38	個人情報の取り扱いに十分配慮しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについては、鍵付きの書庫や取扱への配慮等、慎重な対応に心掛けている。 机の上に放置すること等ないように周知徹底している。 連絡帳の入れ間違え等ないように、ダブルチェックしている。 個人情報の使用については、きちんと同意を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリ等を廃止し、サーバーに切り替えている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者に伝わりやすい方法を選択して取り組んでいる。 言語等の情報伝達が難しい児童については、視覚的な情報伝達(コミュニケーションカード等)を積極的に活用している。 	
	40	事業所の行事に地域の住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ感染予防のため、太陽の家まつり等事業所の行事には、地域住民を招くことが出来なかった。例年は、地域の方も多数参加で実施している。 畑をお借りして芋ほりの体験をさせてもらうなど、地域に積極的に出たり関わるようにしている。 	

非常時等の対応

41	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、職員や保護者等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は、毎月実施しているが、現行の防災マニュアルは不十分なので見直しが必要であり、継続的に見直し作業を進めている。 感染症マニュアルを再確認、再周知し、年1回感染症研修会を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な非常災害を想定したマニュアルの作成、見直し、整備を進めている。 保護者にも周知できるような検討している。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 月1回避難訓練を実施し、クラス内で反省等も行っている。 年1回総合防災訓練を実施し、近隣消防署の協力を得て、起震車による地震体験、煙テントによる煙体験訓練、模擬消火器による模擬消化訓練を行っている。例年は保護者も参加を呼びかけていたが今年度はコロナ感染予防のため参加はなしとした。 訓練日程を知らせない訓練も行い、課題を見つけることが出来ている。 2階からの避難が難しい場合もあるので、情報把握に努めて連携が取れるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の結果や様子について、保護者にも情報発信をしていく。
43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 入園時及び個人面談の際に情報の聞き取り、確認をしている。 必要に応じて、対応マニュアルを作成し、周知している。 看護師にも情報伝達に努め、体調把握に努めている。 保護者からの聞き取りや児童の状況が記載された資料を確認するなどして、服薬内容、てんかん発作、医療的な要配慮事項等の確認、把握を行っている。 	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 医師の指示書に基づき、看護師、栄養士、児発管、担当でカンファレンスを行い、対応の確認をしている。 給食の誤提供が無いように、厨房や栄養士、食事介助の保育士と連携し提供方法の確認作業を決めて対応している。給食のプレートやトレーの色を変えるなど、他児と視覚的に区別できる工夫をしている。 配食の際には必ずダブルチェックを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ケースによっては、医師の指示書だけではなく直接医師に確認している。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 毎月のヒヤリハットを集計・整理して、全職員周知している。 ヒヤリハットの傾向や重大事故に繋がる事例等、リスクに対する認識を深められるように、終礼等で全職員に周知するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員に周知し、リスクを回避する取り組みを継続的に行っている。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 外部の講師(市虐待担当、県中央児相職員)を招聘して、虐待防止研修を企画し、虐待に対する職員の認識を高めるとともに、虐待の早期発見と早期対応に関するポイント等の研修機会を行っている。 家庭虐待の心配があるケースでは、児童相談所と連携を密にして情報交換に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の依頼は出来たが、コロナ感染予防のため方法を工夫して行う。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもの保護者に事前に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児など肢体不自由児童については、座位保持のため胸ベルトを使用しているが、嘱託医の整形外科医の指示に基づいて行っている。 この点については、個別支援計画に必ず記載するようにしている。 医師の指示がある場合でも、必ず保護者の同意を得ている。 	